

館内のご案内

情報ライブラリーでは、平和に関する各種の情報をご覧になれます。

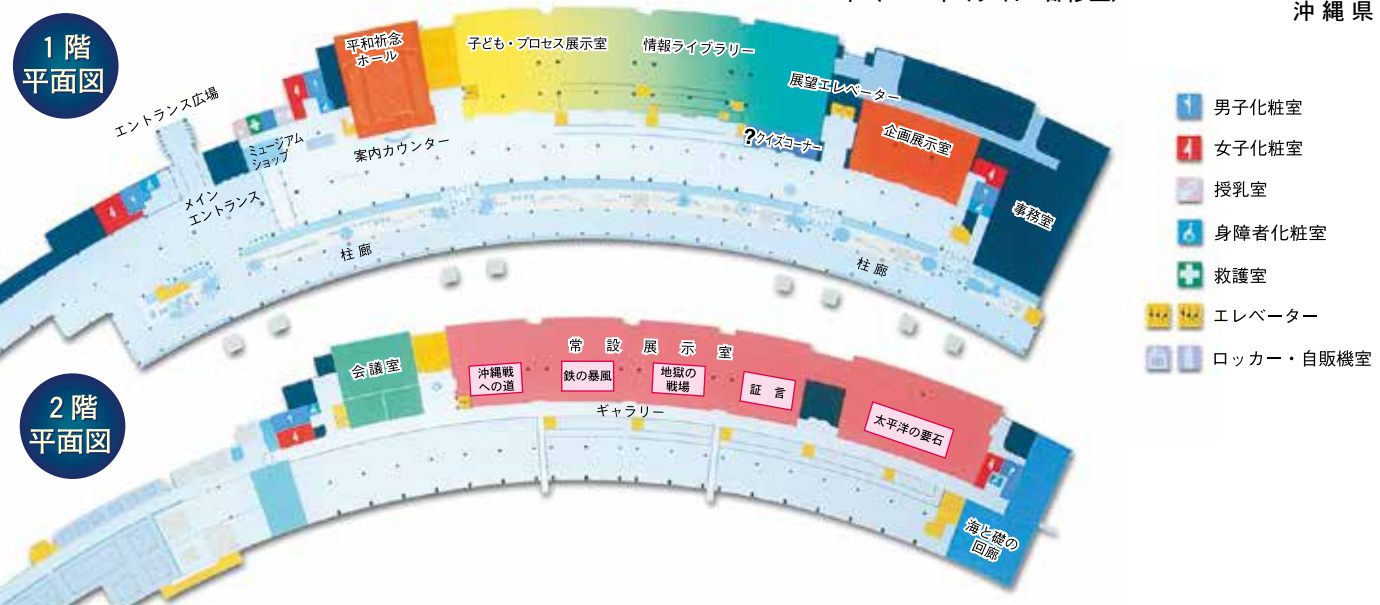
数多くの図書・雑誌を閲覧できるほか、ＡＶブースでは戦争体験者の証言や平和に関するビデオ等もご覧になれます。
また、中央の検索コーナーでは、パソコンの簡単な操作で資料館に収蔵されている多くの収蔵品や図書文献の情報、展示室の解説情報、平和学習の教材など、多様な情報を誰にでも簡単に手に入れることができます。



■情報ライブラリー（1階） ■展望室 ■平和祈念ホール（1階）
230名程度収容できます。



■企画展示室（1階）
255㎡の広さで展示ケース、展示パネルを備えており、写真展や絵画展などにご利用になれます。
■会議室（2階）
教室形式で、100名程度収容できます。
■クイズコーナー（1階）
利用者がモニター画面に触れ、沖縄に関するさまざまなクイズに答えます。



沖縄県平和祈念資料館 設立理念

1945年3月末、史上まれにみる激烈な戦火がこの島々に襲ってきました。90日におよぶ鉄の暴風は、島々の山容を変え、文化遺産のほとんどを破壊し、20数万の尊い人命を奪い去りました。沖縄戦は日本に於ける唯一の県民を総動員した地上戦であり、アジア・太平洋戦争で最大規模の戦闘でありました。

沖縄戦の何よりの特徴は、軍人よりも一般住民の戦死者がはるかに上まわっていることにあり、その数は10数万におよびました。ある者は砲弾で吹き飛ばされ、ある者は追い詰められて自ら命を絶たされ、ある者は飢えとマラリアで倒れ、また、敗走する自国軍隊の犠牲にされる者もありました。私たち沖縄県民は、想像を絶する極限状態の中で戦争の不条理と残酷さを身をもって体験しました。

この戦争の体験こそ、とりもなおさず戦後沖縄の人々が、米国の軍事支配の重圧に抗しつつ、つちかってきた沖縄のこのころの原点であります。

“沖縄のこのころ”とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心であります。

私たちは、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人びとに私たちのこのころを訴え、もって恒久平和の樹立に寄与するため、ここに県民個々の戦争体験を結集して、沖縄県平和祈念資料館を設立いたします。

1975年（2000年4月1日一部修正） 沖縄県



交通案内

- バス利用の場合 ※料金は平成26年4月1日現在
- ① 那覇（バスターミナル）→糸満線（糸満バスターミナル下車）
 - バス番号：⑧9番
 - 料 金：580円（片道）
 - 便 数：20分に1便程度
 - ② 乗り継ぎ／糸満 → 玉泉洞糸満線（バスターミナル）（平和祈念堂入口下車）
 - バス番号：⑧2番
 - 料 金：470円（片道）
 - 便 数：1時間に1便程度
- タクシー利用の場合
- ① 那覇→糸満市摩文仁（平和祈念公園）
 - 距離：約22km
 - 料 金：3,000～3,500円（片道）

見学案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
（ただし、常設展示室への入室は午後4時30分まで）
- 休館日 年末年始の12月29日から1月3日まで

観覧料 （常設展示室）	区分	個人	団体（20人以上）
	大人	300円	240円
	小人	150円	100円

OKINAWA PREFECTURAL PEACE MEMORIAL MUSEUM
沖縄県平和祈念資料館



平和の心と世界へ

沖縄県平和祈念資料館

〒901-0333 沖縄県糸満市字摩文仁 614 番地の1
TEL.098-997-3844 FAX.098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

未来を展望するゾーン

1F (子ども・プロセス展示室)



子ども・プロセス展示室は、大きく三つにわかれている。「ぬちどう宝・せかいの子どもたち！」は、さまざまな国の18人の子どもたちに学校のように、お友だち、遊びのことなどを聞くことができる。「いま、せかいで何が」は、なくならない戦争・紛争、いじめなどの人権問題、むしばまれる地球環境など、世界的な、あるいは、身近な問題を取り上げ、その原因、どうしたら解決できるのかなどを考えてもらうコーナーである。「わらびな一(庭)」は、展示物にふれながら、遊びを通して共通性を見出し、違いを認め合うきっかけづくりができる。親子や友人同士で平和について語り合える場がここにある。



世界はひとつ！
18人の子どもたちが来館者を笑顔で迎えてくれる。

「いま、せかいで何が」のコーナーのひとつ、「なくならない貧困」。

歴史を体験するゾーン

2F

プロローグ

かつて琉球の先人は
平和をこよなく愛する民として
海を渡り アジア諸国と交易を結んだ
海は 豊かな生命の源として
平和と友好の掛け橋として
いまなお 人々の心に息づいている

第1展示室 沖縄戦への道

沖縄戦に至るまでの沖縄の歴史や戦争がなぜ起こったのかを展示。

明治政府は、琉球王府に対して武力を背景にした『琉球処分』を断行した。そこで、沖縄県は皇民化政策によって急速に日本化を進めた。一方、近代化を急ぐ日本は、富国強兵策により軍備を拡張し、近隣諸国への侵出を企てた。満州事変、日中戦争、アジア・太平洋戦争へと拡大し、沖縄は、15年戦争の最後の決戦場となった。



琉球処分から沖縄戦直前まで時系列に沿って展示

幼さが残る少年や老人も戦闘へ参加、米軍の捕虜となる。

第2展示室 住民の見た沖縄戦 鉄の暴風

沖縄戦の実相を住民の視点から描く。被災状況を立体地図や映像・実物等で展示。

沖縄戦において、日米両軍は総力をあげて死闘をくり広げた。米軍は物量作戦によって空襲や艦砲射撃を無差別に加え、おびただしい数の砲弾を打ち込んだ。この『鉄の暴風』は、およそ3ヶ月に及び、沖縄の風景を一変させ、軍民20数万の死者を出す凄まじさであった。



壕等から発見された医療器具

大型スクリーンに映し出される沖縄戦の様子

第3展示室 住民の見た沖縄戦 地獄の戦場

沖縄戦で住民の受けた惨劇を地下(ガマ)と地上(死の彷徨)で象徴的に展示。

日本守備軍は首里決戦を避けて南部へ撤退し、出血持久作戦をとった。その後、米軍の強力な掃討戦により追いつめられ、軍民入り乱れた悲惨な戦場と化した。壕の中では、日本兵による住民虐殺や、強制による集団死、餓死があり、外では米軍による砲爆撃、火炎放射器などによる殺戮があってまさに阿鼻叫喚の地獄絵の世界であった。



ガマの中に避難している住民、子どもの泣き声ももれないように口を押さえる母親、そして威嚇する日本兵。

沖縄戦当時の住民の着物

沖縄戦当時の水が入った水筒

第4展示室 住民の見た沖縄戦 証言

沖縄戦の体験を証言集と証言映像で展示。

沖縄戦の実相を語るとき、物的資料になるものは非常に少ない。無念の思いで死んでいった人たちを代弁できるものは、戦場で体験した住民の証言しかない。忘まわしい記憶に心を閉ざした人々の重い口から、後世に伝えようと語り継がれる証言の数々は、歴史の真実そのものである。



沖縄各地、疎開先、移民した国々での戦争体験証言の部屋。証言映像もご覧になれます。



証言映像ブース 約1,000件の証言映像 (英文対応)

戦争体験の証言 145名(155件)の証言

第5展示室 太平洋の要石

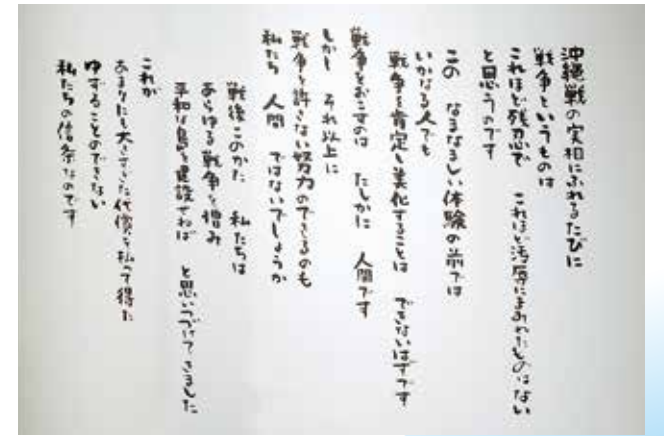
戦後の収容所生活、27年間の米軍統治、復帰運動、平和創造を目指す沖縄を展示。

沖縄の戦後は収容所から始まった。その後、米・ソを軸とした冷戦構造の中で軍事基地として強化されていく沖縄。土地を奪われ、さまざまな抑圧を受けてきた住民の怒りは、島ぐるみの土地闘争や復帰運動へと広がっていく。東西冷戦が終わった今もなお、世界各地にくりひろげられる民衆の悲劇。沖縄の教訓は、「平和の要石」を通して世界へ発信される。



商店(マチャグワー)の内部

1960年代、ベトナム戦争の頃の基地の町並み、Aサインバーや当時の商店(マチャグワー)が再現されている。



展示むすびのことは



太平洋の大海原と打ち寄せる白波、青く広がる空の美しい景観にいやされる。